

港湾振興便り



2012. 1

第57号

*:

目次

*:

1 ポートエッセイ 「本格復興に港湾の活用を」

～日本港湾振興団体連合会会長 篠田 昭～

2 トピック

- 平成23年度～東北地区～『港湾空港技術特別講演会』開催！

(東北地方整備局 港湾空港部)

- 「輪島港の昭和」写真展を開催しました！ ～避難港指定60周年記念事業～

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

- みなとオアシス全国大会in神戸 ～平清盛が夢見た港の繁栄～

(近畿地方整備局 港湾空港部)

- 別府港海岸の里浜づくりでたいへんな栄誉～全建賞の受賞報告～

(九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所)

- 「苫小牧みなとのイルミネーション」の開催！

(北海道開発局 港湾空港部)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ「本格復興に港湾の活用を」

～日本港湾振興団体連合会会長 篠田 昭～

*:

皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

昨年は大変に厳しい災害の年になってしまった。それだけに、今年こそ明るく穏やかな年であることを祈る気持ちが例年以上に切なるものがある。

被災地への支援や避難者の受け入れに引き続き全力を挙げながら、それぞれの地域の安心安全度を高める取り組みが最重要な課題となるのではないか。安心安全の土台を強化する一方、各地域での雇用創出と活性化がもう一つの大きな課題だ。

その両面で大きな役割を發揮するのが港湾であることは論を待たない。東日本の太平洋側が大被害を受けた3・11大震災の救援・復旧では、日本海側や北海道の港湾が大変大きな救援拠点となった。本格復興に向けても港湾の活用が大切なカギとなるし、復興のペースが上げれば上がるだけ、地域に需要と雇用が発生し、景気の浮揚につながる。政府は今年こそ復興元年を確かなものにしてほしい。

大災害の年となってしまった昨年、「なでしこジャパン」が全国に勇気と元気を与えてくれたように、スポーツや文化が地域を励ます力は大変に大きいものがある。

新潟では元旦からスポーツの力を実感できた。「なでしこ」に2人の代表を送り込んでいるアルビレックス新潟レディースが、サッカー全日本女子選手権で初めての決勝進出を果たし、元旦に東京・国立競技場の晴れ舞台に立ってくれた。

私も新潟市での年賀状元旦出発式を終えて、国立に駆けつけた。昨年「なでしこ」のW杯優勝の快挙の後だけに、国立は今までにない観客数だったそうで、大いに盛り上がっていた。スタンドの一角にはオレンジカラーのアルビ応援団が詰めかけ、熱気溢れる声援を送ってくれた。

決勝の相手は「なでしこ」に7人を送り出し、大会連覇を狙うINAC神戸。最強の相手にアルビは果敢に挑んだが、力及ばず準優勝に終わった。しかし、新潟のサポーターからは大きな感謝の拍手が送られた。

正月は駅伝をはじめ各種スポーツにそれぞれの地域が声援を送ったことと思う。今年は雇用の創出を柱として、それぞれの地域が活性化し、地域に誇りを持って暮らせる日本にしていきたいものである。

*:

2 トピック

*:

●平成23年度～東北地区～『港湾空港技術特別講演会』開催！

（東北地方整備局 港湾空港部）

11月23日・勤労感謝の日、「平成23年度港湾空港技術特別講演会in東北2011」をハーネル仙台において開催しました。

東日本大震災で甚大な被害を受けた東北の港湾・空港ですが、国土技術政策総合研究所、(独)港湾空港技術研究所から講師を招き、東北地域の抱える港湾空港の技術課題に則した研究及び成果などの情報交換の場として開催したものです。開催に当たり、基調講演として日本学士院会員で東京大学名誉教授の堀川清司氏による「津波との係わりについて」と題して、1960年のチリ津波地震、インドネシア・スマトラ地震と東北地方太平洋沖地震に伴う大津波からの教訓等の話を頂きました。一般の方の聴講を視野に入れた祝日開催で144名の参加があり盛大な講演会となりましたが、若い人の参加が少なく、これからの課題となりました。

今後、講演会の通年開催を通して、港湾・空港研究で世界トップの技術力を誇る両研究所の成果を活用し、東北の港湾・空港の継続可能な整備に役立てていきたいと考えています。



▲【主催者挨拶 梶原副局長】



▲【堀川清司氏による基調講演】

●「輪島港の昭和」写真展を開催しました！ ～避難港指定60周年記念事業～

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

平成23年11月14日～12月2日まで、輪島市役所2階ロビーにおいて、「輪島港の昭和」写真展を開催しました。

同写真展は、昭和26年に輪島港が港湾法に基づく避難港に指定されてから60年目を迎えることから、金沢港湾・空港整備事務所が主催、石川県が共催する記念事業として、輪島市、輪島商工会議所及びJFいしかわ輪島支所の協力を得て実施しました。

写真展では、輪島写真連盟所属の2名が所有する昭和30～50年代の写真17点及び国土地理院等が所有する昭和22年からの航空写真9点の合計26点を年代別に展示し、併せて当事務所が実施している避難港整備事業の概要や、輪島港マリンタウンが豪華客船入港などで賑わう最近の様子も展示しました。

会場には、昔の輪島港の姿を懐かしむ高齢者や、子供に当時の思い出を話している親子連れなどが見られました。

今回の記念事業は、多くの市民に写真をご覧いただくことで、輪島港に対する過去の思い出や将来への期待を新たにさせていただくとともに、避難港整備事業に対する理解をより深めていただく良い機会となりました。

「輪島港の昭和」写真展

輪島港避難港指定六十周年記念事業

期 間 平成二十三年十一月十四日(金)～十二月二日(金)
土日・祭日を除く毎日八時三十分～十七時十五分

会 場 輪島市役所 二階ロビー

入 場 入場無料(自由閲覧)

主 催 国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所
協 力 石川県、輪島市、輪島商工会議所、石川県漁業協同組合輪島支所

〔お問合わせ先〕
国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所 企画課
電話 076-822-2141(2分以内) FAX 076-822-2142

〔内 容〕
市民の方々から提供いただいたま
した昭和の時代の輪島港の懐かし
い写真などを展示しているほか、
航空写真を併せて展示しています。

＜展示写真の例＞

昭和22年 航空写真
昭和30年 航空写真

▲【写真展開催案内ポスター】



▲【昔の輪島港を懐かしむ市民】

●みなとオアシス全国大会in神戸 ～平 清盛が夢見た港の繁栄～

(近畿地方整備局 港湾空港部)

平成23年11月11日～12日、みなとオアシス全国大会が神戸港の神戸波止場町TEN×TENで開催され、当日は溝畑観光庁長官をはじめ、全国のみなとオアシス関係者など約140人が参加しました。

大会では地元主催者のNPO法人神戸グランドアンカーが提唱する「マリンポートツーリズム」の全国展開が決議されるとともに、各みなとオアシスの担当者よりそれぞれの取り組みについての報告や活発な意見交換が行われました。

「マリンポートツーリズム」とは、海洋国日本として繁栄し発展してきた各地域の暮らしや経済を



▲【溝畑観光庁長官の挨拶】

支える「みなとまち」があり、それぞれの歴史や文化など個性豊かな観光資源を活用することで、全国の「みなとまち」が相互連携しながら地域振興を図っていくとして、これまで同法人が取り組んできたものですが、今後は各港のローカルイズムを最大に活かした港湾振興や国内だけでなくアジア各地からの観光も見据えた活動展開が期待されます。

またマリポートツーリズム提唱によせて、神戸大学の神木名誉教授より「海洋日本の観光戦略～平清盛が夢見た港の繁栄」の基調講演がありました。



▲【兵庫区の地域シンボル「清盛くん」】

平清盛は異郷の地との交易による海の都を築くために、港に近い福原への遷都を企て、私財を投じて現在の神戸港の礎となる大輪田泊（おおわだのとまり）の大規模修築の難工事に挑みました。これは中国・宋との交易を拡大することで、「港を中心とした国際貿易都市」を夢見たのかも知れません。

その後、室町時代には兵庫津と呼ばれるようになり、中国・明との貿易港として、また江戸時代には瀬戸内海有数の港町として繁栄し、今日の神戸港発展の基礎となりました。

海は陸を隔てているのではなく繋がっているものであり、港はその地域の玄関口。それぞれの港町が持つ歴史・文化・景観を活かし、訪れる人には異文化を繋ぐ港に親しみをもってもらいたい。そんな「みなと」の魅力創出への強い意気込みが伝わる大会でした。

次の開催地に選ばれた福島県のいわき小名浜みなとオアシスの担当者からは、復興のシンボルのひとつとして水族館の再オープン（2011年7月）を挙げ「皆さんが想像するより小名浜は元気です。みなとの人と一緒に盛り上がり、復興に繋がりたい」と力強い言葉で大会を終えました。

今回の大会での取り組みや全国各地の「みなとオアシス」の活動が、「みなと」を主役とした新たな観光振興の広がりや、「みなとの元気は日本の元気」に繋がるよう期待したいと思います。



▲【会場（神戸波止場町TEN×TEN）の様様】



▲【「港弁」たこしゃぶちらし】

●別府港海岸の里浜づくりでたいへんな榮譽～全建賞の受賞報告～

(九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所)

別府港海岸は、直轄の海岸保全施設整備事業(高潮対策)として防護機能と海岸の利用及び自然環境に配慮した「別府港海岸の里浜づくり」を進めています。

別府港海岸「餅ヶ浜地区」は、国土交通省の高潮護岸、大分県の港湾緑地、別府市の市道と各事業主体が連携して実施し、白砂青松の海辺空間の創出を整備目標とした「面的防護方式」による整備を行い、平成22年度に施設が完成しています。

平成23年11月25日に、社団法人全日本建設技術協会より、平成22年度全建賞の受賞とたいへんな榮譽をいただきました。

本事業の計画策定では、検討会と幹事会15回、ワークショップ8回を開催しており、整備計画検討会の委員長と委員、大分県及び別府市の関係者の方々の熱意と地域住民及び漁業関係者のご理解とご協力をいただき、施設の整備では、建設コンサルタントと建設会社など多くの関係者が従事され、白砂青松の海辺空間が実現しました。

計画当時は、人工海浜事業に対する疑問・反対の声があり全国紙・議会にとりあげられるなど担当者のご苦勞もあったようですが、計画が実現したことで、地元紙より海岸整備事業に好意的な一面記事が掲載されるなど地域の方への事業に対するご理解を得る一助になったと考えます。

このように、地域住民と有識者と行政の協働成果として評価をいただいたものと思います。



▲【別府港海岸(餅ヶ浜地区)H23.5撮影】

●「苫小牧みなとのイルミネーション」の開催！

(北海道開発局 港湾空港部港湾計画課)

苫小牧西港フェリーターミナルでは「みなとの賑わい創出」を目的に「苫小牧みなとのイルミネーション」を開催しています。

今年度は平成23年12月2日(金)に約10万個の発光ダイオード(LED)を使った点灯式が行われ、約300人の市民が会場に集まり、冬の港にきらめく光の美しさに歓声があがりました。

また、本イベントの開催にあわせて、ターミナルでは全国のイルミネーションイベントポスター展も開催しており、南は九州から北海道まで全国各地のイルミネーションイベントのポスターも展示されています。



▲【ライトアップされたフェリーターミナル】

「苫小牧みなとのイルミネーション」はターミナルを運営する苫小牧港開発(株)が主催し、苫小牧みなとオアシス運営協議会も協賛している企画で、今年で2回目の開催となります。

開催時期は平成24年2月29日までとなりますので、苫小牧へお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

・苫小牧みなとのイルミネーションパンフレット

http://www.tomakai.co.jp/user_edit/poster.pdf

:~

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

::*:*:*:*:*:*:*~

● 苫小牧港 みなとのイルミネーション

場所: 苫小牧西港 フェリーターミナル

時期: 平成23年12月2日~平成24年2月29日

<http://www.city.nemuro.hokkaido.jp/section/100th-memorial/top.html>

● 稚内港 彩北わっきゃナイト

場所: 稚内港 北防波堤ドーム周辺

時期: 平成24年2月11日(土)

<http://www.machikon.net/event-wakkyanight.html>

● 網走港 あばしりオホーツク流氷まつり

場所: 網走港 商港埠頭会場

時期: 平成24年2月10日~2月12日

<http://abashiri.jp/tabinavi/18ryuhyomatsuri/>

::*:*:*:*:*:*:*~

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL: 03-5776-0630

FAX: 03-5776-0631

e-mail: bcf06323@nifty.com

::*:*~